



児童生徒への障害の理解を図るための教材にはどのようなものが考えられるのか？

【研究を行った背景】

近年の特別支援教育の流れの中では、個々の子どもに対応し社会全体で子どもに教育的な支援を行っていくという考え方が重要になります。そのためには、子どもにかかわる人々の障害への理解が不可欠となっています。

【研究結果】

障害理解を図るための教材として、ブックレットの作成を行い。障害理解のツールとして6つの点について留意して作成しました。

- | | |
|----------------|---------------|
| ①内容への親しみやすさ | ②ストーリーのわかりやすさ |
| ③キャラクターの親しみやすさ | ④文字の分量 |
| ⑤メッセージの伝わりやすさ | ⑥言葉遣いの適切さ |



6



45

ブックレットに登場するキャラクターの例

【研究結果からの提言】

障害の理解を扱う場合にも子どもの発達段階や、理解の度合いの個人差にあわせて内容を吟味する必要があります。

障害理解を図るための教材は、主に

- ①障害の知識を深めるもの
- ②障害の疑似体験を行うもの
- ③障害のある人のある場面で感じる気持ちを想像するもの

をあげることができます。

この研究では、主に小学校の低学年の児童向けの教材をターゲットとしたことから、あまり障害のある人とない人の差異を強調するのではなく、ブックレットを通して障害のある人が困る場面の心情を想像し自分に置き換えながら、その気持ちを共有できる教材がこの年齢段階の子どもに必要なではないかと考えました。

また、授業などで取り組まれた内容が時間をおかずして、子どもに影響することは難しいので、これらの取り組みをきっかけとして、長期的な視野で子どもの障害に対する理解について見守る必要があると考えています。

【研究結果の効果・効用】

この研究の成果は、教材としてはブックレット「なにができるかな？なにができるかな？」(試作版)に、ブックレットを作成するにいたるまでの検討内容と、作成後に研究協力校で実践いただいた内容については、平成17年度 課題別研究「通常の学級における障害理解のためのツール開発に関する研究」研究報告書にまとめました。

ブックレットは総合的な学習の時間や道徳の中で行う障害理解の授業での活用が可能ですし、研究報告書からは、障害の理解がどのように考えられているのか、教材を作成するために考えるべき点、また、授業を組み立てる上で必要な幾つかの知見を得ることができます。

【研究結果の活用】

研究活動の中で作成したブックレット「なにかできるかな？なにかできるかな？」を、興味を持って頂いた先生に配布し、小学校などの総合的な学習の時間や道徳の授業に活用してもらい、実際の使い方などについてのフィードバックを頂いています。

この研究は1年間の限られた期間での検討であり、ブックレットは試作版という位置づけです。

今後、研究分担者の個人研究の中で、この障害の理解についての知見を深め、新たな「なにかできるかな？なにかできるかな？」を作成する必要があると考えています。



ブックレット試作版

【参考文献】

- 真城知己（2002）教員養成課程における「障害理解教育」実践者養成に関する研究：意識変化の特徴検討へのコンジョイント分析の応用. 発達障害研究 .23(4).267-275.
- 佐藤正幸（2002）聴覚障害理解の授業に関する調査. 国立特殊教育総合研究所紀要 .29. 81- 89.
- 相川恵子・仁平義明（2005）子どもに障害をどう説明するか ブレーン出版

本リーフレットは、研究所で行った次の研究を基に作成しています。

【研究課題名】

通常の学級における障害理解のためのツール開発に関する研究

（平成17年度）

【研究組織／問い合わせ先】

研究代表者：横尾 俊
（メールアドレス shun@nise.go.jp）

研究分担者：新井千賀子（平成17年9月まで）
伊藤由美・植木田潤・大崎博史・
海津亜希子・齊藤宇開・玉木宗久・
渡邊正裕



なお、研究成果物は、研究所 web ページに掲載されています。

独立行政法人国立特殊教育総合研究所 (National Institute of Special Education; NISE)

〒239-8585 横須賀市野比 5-1-1 TEL: 046-839-6890 URL: <http://www.nise.go.jp/>